# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

## 小中学生の部

令和六年度十月　入賞句一覧

投句数　千四百九十六句

星野　勝　選

### 特選

かまきりと目が合いピタリ足止まる　　大垣市　鈴木　桃果（小六）

見た目はグロテスクなかまきり。その名の通り両前足がかまのようになっていて、えさとなる小さな昆虫を捕まえるときに便利な形になっているのだそうです。敵が近づくと、そのかまを大きく振り上げて威嚇する姿には、私も一瞬固まってしまった記憶があります。予期せずかまきりと出会ってしまった一瞬を切り取って、誰もが共感できる句に表すことができました。「見つけ」や「いて」ではなく「目が合い」と表現したことが、臨場感を生み出しています。

うろこぐもながめていたいひるやすみ　　大垣市　かく本　すずは（小二）

午前中四時間授業を受けて給食も食べ、ホッと一息ついた昼休み。窓を全開にすると、さわやかな秋の風が吹き込んできます。ふと空を見上げるとすっかり秋の空に変わり、うろこ雲が見えたというのです。その心地よさに、つい時間がたつのも忘れてしまうくらいだったのでしょう。やがてチャイムが鳴り、掃除の時間が始まるのでしょうか。それでもしばらくは何も考えずに空をながめていたい、そんな気持ちが十七音に見事におさめられています。

紅葉の葉大きくなった私の手　　加茂郡川辺町　村山　心菜（中二）

「紅葉のような手」は、幼い子の可愛らしい手を形容して使われる表現です。作者は、紅葉の葉を見ながら、自身の幼いころのさまざまな思い出を脳裏に浮かべたのでしょうか。そして今目の前にある自身の手を見ながら、成長した自分を実感したのかもしれません。だれしも日常に追われ、自分の成長を実感することはなかなかありません。そんな中でふと見つけた紅葉の葉から、しみじみと自身を振り返った作者の感性が伝わってくる句になりました。

### 秀逸

朝一番とんぼとともに風浴びる　　加茂郡川辺町　松岡　怜美（中二）

リレーバトンつながる想い体育祭　　加茂郡川辺町　園川　愛月（中三）

タイマーを五分にセット秋の昼　　加茂郡川辺町　馬場　岳空（中三）

うんどう会おやのかお見てちからだす　　大垣市　松岡　采音（小二）

ハロウィンは仮そうとメイクで魔女気分　　大垣市　折戸　惺奏（小三）

長そでを着てくかまよう秋の朝　　大垣市　佐藤　祐（小三）

秋風にのって遠くへホームラン　　大垣市　中村　健誠（小四）

ペダルこぐ影がのびるよ秋の暮　　大垣市　島根　晴（小四）

青みかん手のつめの中まっきいろ　　大垣市　新道　菜々花（小五）

はやいけどつかまえたいよあかとんぼ　　大垣市　こじま　しゅうや（小二）

## 入選

秋の風夏で残った熱とばす　加茂郡川辺町　粕谷　晴希（中三）

星月夜光の雫藍に落ち　加茂郡川辺町　野田　美樹葉（中三）

秋分を酷い暑さが追いかける　加茂郡川辺町　岡安　心優（中三）

秋の風暑さ寒さが入りまじる　大垣市　伴　綾乃（小六）

水面にひっくりかえる秋のカモ　大垣市　久我　ミツキ（小六）

コスモスだおとなりさんはまだ空き地　大垣市　布川　陽奈子（小六）

秋の風暑い空気を持っていく　大垣市　久保田　琴葉（小六）

はれおとこうんどうかいのにんきもの　大垣市　たか田　あっし（小二）

手をのばすきらきら光るくりごはん　大垣市　明石　恭佳（小四）

運動会そよ風ふいて猛ダッシュ　大垣市　髙木　咲羽（小四）

こうようできれいになったうちのにわ　大垣市　大橋　琉斗（小五）

秋の風私の横をかけぬける　大垣市　小坂　茅佐（小五）

ツーツーととんでは消える赤とんぼ　大垣市　柳瀬　才嬉（小五）

赤とんぼ田んぼの上をおにごっこ　大垣市　谷　実咲（小五）

くりごはんぜんぶ食べきるおかわりだ　大垣市　高木　ゆめ（小二）

もみじはねかぜにふかれてたのしそう　大垣市　たにざき　うた（小二）

帰り道桐一葉見て立ち止まる　大垣市　大橋　万葉（小六）

おつきみのおもちをすこしつまみぐい　大垣市　大辻　愛奈（小六）

金色のみつが広がるさつまいも　大垣市　森　太一（小六）

見上げればもみじがちょんとほほをつく　大垣市　杉山　柚月（小五）

## 小中学生の部

## 選者吟

曼珠沙華セピア写真の祖母の笑み　まさる